

～特別活動 研究実践～

# 多様な考えを認めたり、よさを生かし合ったりすることで、 よりよい合意形成の図り方について考える学習

～5年「学級ポストから（学級や学校における生活づくりへの参画）」の実践を通して～

小野 義幸

特別活動研究実践 五年『学級ポストから（学級や学校における生活づくりへの参画）』の実践を通して

## I はじめに

全体研究の2年次テーマ「深い学びを実現する学習づくり」を受け、特別活動では、課題について多面的・多角的に考え、合意形成を図ったり、意思決定したりできるような話し合い活動を重視した。そこで2年次は、「自治的能力を育む学級集団を実現する活動づくり②～学級活動における話し合い活動の充実からのアプローチ～」を研究テーマに設定した。学級活動(1)では、事前の活動、学級会、実践、振り返りなどの一連の学習過程の中で合意形成する活動を繰り返し積み重ね、学級活動(2)・(3)では、児童が自己の課題に正面から向き合い、話し合い活動を通して解決策などを意思決定し、よりよい自分づくりを追究してきた。



班内でお互いの考えを交流する児童の姿

## II 研究の目的と方法

本研究では、一人一人の思いや願いを意見として出し合い、互いの意見の違いや多様な考えがあることを大切にしながら合意形成するとともに、必要な役割や仕事を決めたり、それらを分担したりして、協力してやり遂げようとする態度を育てることができるようになるための指導方法について研究した。本稿では、以下の2つの視点について分析する。

- ① 発達段階に応じた話し合い活動の設定
- ② 次の課題解決につなげる実践の振り返り

なお、「学級ポストから（学級や学校における生活づくりへの参画）」の概要は以下の通りである。

### 1 活動名 「学級ポストから（学級や学校における生活づくりへの参画）」

### 2 活動の目標

学級生活をよりよくするための一人一人の思いや願いを意見として出し合い、互いの意見の違いや多様な考えがあることを大切にしながら合意形成するとともに、必要な役割や仕事を決めたり、それらを分担したりして、協力してやり遂げようとする。

### 3 活動の概要

本活動は、(1)学級や学校における生活づくりへの参画の「ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決」に関わるものである。多くの児童が学級会において意見を言うことに意欲的である一方、反論されることに対して抵抗感を感じている児童が少なくない実態から、自他の意見のよさを認め合いながら合意形成を図っていきけるようにすることが必要だと考えた。そのため、反対意見よりも賛成意見を軸とした話し合いをすることで、より多くの意見や合意形成をするための考え方を引き出すことができると意図した。

学級会では、議長団と計画委員会で打ち合わせをし、個人の意見を交流したり、グループで話し合ったりする機会を計画的に設けた。その際に、①意見のよさを加味する②意見を合体させるなどの手法を使い、反論のみの主張で話し合いが進まないようにした。

### Ⅲ 結果と考察

#### 1 発達段階に応じた話し合い活動の設定

##### (1) 結果

本時では、事前の意識調査や観察から得た児童の実態から、話し合いの中では反対意見を述べることを控えた。賛成意見を軸とするよう促した結果、自由に意見を述べる児童が増え、活発な意見交流が見られた。本時の議題は、「1学期学級集会について話し合おう」である。提示された議題の提案理由は2つあり、1学期を楽しく締めくくることが、夏休みから外国へ行ってしまいう友達とお別れ会をすることである。話し合う柱1は、「学級集会のねらいの決定」にした。決まったねらいは、盛大に1学期を楽しく終われるような催し物をするのと、お別れする友達に楽しんでもらえるように相手意識をもって会を計画することである。柱2は、学級集会の内容の決定である。ここでは、個人の考えを基に班で交流し、班提案を全体で交流した。班交流の際には、議長・副議長も机間を回り、各班の話し合いに耳を傾けたり、ねらいから逸れないように助言をしたりした。各班から出てきた提案は、書記が黒板上で分類して貼り、全体交流の際に視覚的に活用できるように工夫した。意見が出尽くし、話し合いの終盤になると、議長は合意形成の方法について意見を集めた。その後、理由を述べながら意見を合体させたり次の機会に回したりして多数決に頼らない方法でまとめた。



写真1 班交流の際に机間を回る議長

##### (2) 考察

学級会では、反対意見を中心に決定や判断をする話し合いをしないようにしたことで発言数が増え、活発な交流が見られるようになった。クラス替えをして日が浅く、新しい人間関係を構築している現在の状況の中では、効果的ではないと判断したからである。ただ、反対意見自体を否定しているのではなく、今回は実態を踏まえながらこのように取り組んだが、反対意見を取り入れながら進める学級会については、2学期から取り組む予定である。

班交流をしている際に、議長・副議長は机間を回った。班が考えている意見について、その場で具体的に質問したり、逆に質問を受けたりするなど、班交流に深みをもたせることができたと考える。短冊を回収したりマジックを配付したりする仕事やタイムキーパーなどの役割もあるが、4人の議長団で分担し、このように机間を回って話し合いに参加する取組は有効であると考えられる。

合意形成の方法を全員が数パターン知っていることは、話し合いを円滑に進めるうえで有効であった。今後もすぐに多数決に頼らず、少数意見にも耳を傾けて深められるような話し合いをしていくことで、能動的に話し合いに参加する児童が増えていくと考えられる。



資料1 win-win学級会～書記による板書～

## 2 次の課題解決につなげる実践の振り返り

### (1) 結果

学級集会後に書く「振り返りの視点」として、以下の4点を例示した（資料2）。

- ①ポスト→議題を選ぶ→学級会での話し合い→準備→学級集会 の流れの中で、（自分・友達・学級等）が成長したことや良かったこと
- ②自分たちの手で計画し、実際にやり終えてみて今思うこと
- ③今後に向けて、生かせること
- ④友達のよかったところや参考にしたいところ

#### 資料2 学級集会後に書いた振り返りの視点

この4点については、振り返りを書く際の参考とするもので、全てを取り上げる必要はなく、由に記述した。下の資料3は、学級会で議長を担当した児童の振り返りである。多数決で決めてきた今までの方法を使わず、少数意見にも耳を傾けながら全体が納得できるように合意形成ができたことを成長したこととしてまとめている。資料4は、副議長を担当した児童の振り返りである。事前に行った担任と議長団の話し合いの中で話題になった「合意形成の仕方」について取り上げ、自らの今後の目標を記述している。

ぼくは、学級会の司会をしました。学級会の司会を通して、成長したことが2つあります。一つ目は、3、4年生の時のように「多数決」という決め方にたよるのではなく、学級全体の意見をまとめて、学級全体が納得するために、「合意形成」がうまくできるようになったことです。二つ目は、より、たくさんの人から、意見を

#### 資料3 議長担当児童の振り返り

学級会での話し合いで議長団が予想した話し合いの方向どおりに話し合いが進みももとの予想時間より早く進行したので合意形成を議長団がはかるとはならずその意見をほしめずすることにしたりいいという先生のアドバイスで合意形成の意見もあつめることになりそうはんだんや考えを先生のアドバイスなしでできたりいいと思った。また今回

#### 資料4 副議長担当児童の振り返り

りたいです今後の学級会も話し合をスムーズにやして生かしていきたいです今回の学級会では色々な人が発表していたりグループで話し合するときも話し合ができていたと思うのでこれからも意味のある話し合をしていきたいです。

#### 資料5 抽出児童①の振り返り

資料6の児童は、学級集会においてレク係を担当していた児童である。本人自身が、学級会の話し合いの際には積極的に挙手をし、多く発言をしていたが、振り返りには、学級全体に目を向け、話し合いの仕方について肯定的に記述をしている。

たと思う。やっぱりみんなで協力して準備し作り上げた会はずいぶん楽しい。これからは学級会で話したことがよい物になるよう、みんなで意見を出し合い、決まったことを日々の生活に取り入れて、楽しく生活できるようにしていきたい。

#### 資料6 抽出児童②の振り返り

### (2) 考察

事前の担任と議長団との打ち合わせでは、各柱に使う時間配分とフロアから出てくると予想する意見の内容について吟味した。また、柱2において意見が広範囲に広がったときや深まってきたときに、どのように合意形成をするかを話し合った。議長と副議長が時間的な目安をもち、合意形成に至る手順を明確にしておくことで、自信をもって話し合いを運営できたと考える。実際に時間的な余裕が

あったために、フロアーから合意形成の仕方に対する意見も集めることができ、多数決に頼らず決めることができた。資料5のようなことを書いた児童が多くいたことから、ほぼ全員が納得できる決定となったと考える。書記の2人は、どのように板書を構成したら見やすく考えやすいかということとを事前に話し合った。数回重ねた打ち合わせの中で板書計画を立て、実際に写真も撮るなど、細かいところまで準備していた。2頁の資料1の板書の写真は、ほぼ2人がイメージしたとおりに構成されている。議長・副議長の二人だけではなく、書記の児童も学級会の流れをしっかりと把握して準備しておくことで、話し合いを円滑に進めることができた。資料6の児童は、話し合いへの参加態度について振り返ることで、この経験を次へどう生かすかという視点で考えている。実践して終わりではなく、一連の活動を振り返って、成果や課題を確認し、次の実践や新たな課題解決につなげていくことが大切であると考えた。

#### IV まとめ

本研究では、一人一人の思いや願いを意見として出し合い、互いの意見の違いや多様な考えがあることを大切にしながら合意形成するとともに、必要な役割や仕事を決めたり、それらを分担したりして、協力してやり遂げようとする態度の育成を目指してきた。その成果と課題を以下に示す。

##### 1 成果

- 事前の意識調査や観察から得た児童の情報を基に、現在の実態に合った話し合いの仕方を選択することで、意欲的に発言を促すことができた。
- 計画委員会による議題の選定や議長団による準備（発問や説明の仕方の吟味、板書計画、合意形成の仕方、時間配分等）を計画的にしておくことで、フロアーに安心感が生まれ、納得して合意形成に向かうことができた。
- 一連の活動を通して振り返りをする際に、視点をいくつか示しておくことで、自分たちの成長や達成感、成果と課題などを次につなげていこうとする態度を育成することができた。また、それを交流することで子供たち自身が客観的に活動を振り返ることができた。

##### 2 課題

- 話し合いだけ、実践だけを取り出すのではなく、事前から事後まで一連の学習過程を押さえて、どこで、どのような力を付けたいかを明確しておく必要がある。

#### V 参考文献

- 小学校学習指導要領 文部科学省 平成29年3月
- 小学校学習指導要領解説 特別活動編 文部科学省 平成29年6月
- 楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動 小学校編  
文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成26年6月
- 初等教育資料No.942「特集Ⅱ 学習指導要領における指導のポイント〔特別活動〕」  
東洋館出版社 平成28年7月
- 初等教育資料 No. 963「特集Ⅱ 学習指導要領に向けた指導の在り方〔特別活動〕」  
東洋館出版社 平成30年1月
- 道徳と特別活動 vol.34 No. 2 文溪堂 平成29年4月
- 道徳と特別活動 vol.34 No. 4 文溪堂 平成29年6月
- 「小学校新学習指導要領ポイント総整理 特別活動」  
杉田 洋 東洋館出版社 平成29年12月
- 「小学校教育課程実践講座」ぎょうせい 有村 久春編著 平成29年12月
- 「自分を鍛え、集団を創る！ 特別活動の教育技術」 杉田 洋 小学館 平成25年3月

# 特別活動部会

司会者 薬師寺要次 (旭川市立東光小学校教諭)  
助言者 佐藤 聖士 (北海道教育大学旭川校教授)

## I 授業の部会から ※主なものを抜粋

### 議長・副議長の司会について

- 議長・副議長の話合いの進め方が素晴らしかった。適切な時間配分で、要点をしっかりと押さえて進行していた。
- 議長団がこの学級会に向けて、自分たちで模擬授業をしたり、板書構成を考えたりしていたと聞き、授業を見て納得した。
- 各班で交流していたときに、議長と副議長が黒板の前に座っていなく、各班を回って話し合いに参加していた。そこでも質問をしたり受けたりして、その後の班の発表によい影響を与えていた。
- 合意形成の段階で司会が、ある意見を切るときに、「今回は残念だけれど…この次にまた検討しましょう。」といった気遣いをするので、フロアの雰囲気をよくしていた。
- 議長と副議長がたまに見ていたが、事前に原稿を作っていたのか。作っているとしたら、教師はどこまで介入しているのか。
- 司会の児童が使う「司会マニュアル」は全員が持っているが、最初は原稿をもっと詳しく書いて渡していた。今回の議長団へは、ある程度の選択肢や例などは示したが、話す内容の細かいところについては自分達で決めていた。今後も助言はするが、議長団の考え方を尊重しているように考えている。



### 学級会の話合いについて

- 子供たちの話合いの質が高いと感じた。また、学級会がどのように流れていくかフロアの子供たちも理解していた。今までの積み重ねの様子を知りたい。
- クラス替えをして4月から取り組んだ学級会は、本日で5回目である。最初の2回は、旧4年1組と2組の子供たちに議長団を務めてもらい、それぞれの学級でどのような学級会を経験してきたかを確認した。附属小学校では、学校として学級会の進め方は全教員が統一した進め方を確認しているが、各学級独自のものもあるため、実際に行ってみると細かいところの違いが見えた。そこで、全員で学級会の進め方を今一度確認し、5年1組として学年の発達段階にも合わせた基本スタイルを作り上げた。その後は、主に議長団との打ち合わせや計画委員会の進め方を中心に指導をした。全体的に「反対意見に抵抗を感じることで発言を控えることがある」という実態もあるため、そこをどう改善していくか今後の課題である。
- 話合いの後に振り返りを書き、発表していたが、書く目的はなにか。
- 今回は2つ重視した。本時の話合いへの参加態度や関わり方を振り返ることと、友達のよい点を参考にすることである。もちろん今後の意欲面について取り上げても構わない。とにかく今は、個人及び学級の成功体験を積み重ね、話合いの仕方を向上させたいと考えている。

### その他について

- 教室掲示が視覚化されていて素晴らしい。道徳も特別活動も見てすぐに分かるようになっている。特に特別活動は、本時に至るまでの議題選定や議題に関わる現時点の意見などの様子が分かってよい。

## II 助言者からの講評 ※要点のみ

### 佐藤 聖士教授から

#### 特別活動の教育に求められているもの

平成になってからの 30 年間で特別活動の実践史を俯瞰すると様々な変化が見える。昭和の時代は、年間 70 時間できた学級活動が今は 35 時間である。時間的にも内容的にも様々な工夫が求められている中で、特活の教科書のようなものを作りたいという願いを基にできたのが、ガイドブック『楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動』である。歴代の教科調査官 3 名や札幌の有名な実践家の校長先生が執筆に当たっている。是非読んで実践していただきたい。「児童の笑顔」「保護者の信頼」「教師のやりがい」は、時代がどれだけ変わっても変わらない不易で普遍的な価値であり、大事にしてほしい。

#### 附属小学校の研究に求めるもの

特別活動の授業を公開する附属小学校が西日本を中心として少しずつ増えてきている。現在は 10 校程度あると思われるが、最近までは附属旭川小学校のみが公開していた。今後も全教科領域の授業を公開し、地域のモデル校として知・育・体の調和のとれた子供を育成して行ってほしい。このスタンスを変えずに、研究の成果が他の学校において使われているのかどうかの検証を図って行ってほしい。



#### 授業について

先生がしっかりと準備をしていたことと、議長や副議長の力量の高さが素晴らしいと感じた。また、話し合いを円滑に進めていく環境構成「特活コーナー」「win-win ポスト」「ホワイトボード」「ピンクと水色のマグネット」も素晴らしい。昨年度の特活の全道大会では、賛成は「にこにこ」、反対は「不安です」といった表現で表していた。反対意見に対する恐れや不安をなくす手立ては、実態を見ながら工夫していく必要があると感じた。授業者が「何を」「どの程度」「どこを」目指すのか、そしてどう仕掛けるのか。また、今は目指すところの何段階目で、「だからこのようにやる」ということを授業者が意識しておくことが大事である。多数決はとってはいけないということではない。とるべきところはとるべきである。ただ、とらなくても話し合いで決まるならそれでよいと思う。学級会の今後の課題として、合意形成の場面で担任がいくつくらい方法を知っていて、それを子供たちが使えるようになっているか。そして、それを日常生活でも発揮できるかということである。小野先生が来年も特別活動を担当し、1年後にさらに育ったこの学級の子たちの姿を私はまた見たいと思う。

#### 学習指導要領に関わって

各学校で特別活動の教育課程が編成されていることと思う。みなさんは、各学校においてその作業に参画しているだろうか。領域については教務の仕事かもしれないが、願わくばこれをみなさんにやっていただくことが大事なことだと思う。1 つでもいいから計画を作ってみると、その人の視線が俯瞰から見えるようになる。開かれた教育、開かれた学校と言っても、実は内側には開かれていないことがある。特にこの特別活動においては、内側に開かれないことが多いので、大事にしたと思っている。得られる効果が大きく、感動もあり涙も流れるが、一方で不用意な使い方をするると特別活動が問題行動や災いの種になるときがある。(元調査官の) 杉田先生がよく本の中に書かれている。今一度みんながこの特別活動に対する研修を深めるときなのではないかと思っている。